



# 八戸ロータリークラブ レター

新年号 2021.1.4

会員の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

希望に満ちあふれた素晴らしい1年になりますよう、願いを込めて

**八戸ロータリークラブ レター** 新年号を発行しました。

新年に向けた皆さまの思いがつつられています。どうぞご覧ください。

(順不同・敬称略)

## 「新年の抱負」

道尻 誠助

新年明けましておめでとうございます。

皆さんと共に健康でいられることは大変ありがたいことで、感謝しております。コロナ禍は、これまで大切とされていた人と人とのコミュニケーションが時として制限されたり、それまでの常識が通用しなくなったりと、多くのことをわれわれに気付かせてくれました。今こそ「お互いさまの精神」が必要ではないでしょうか。そんなこともあって、今年は小さな目標を立てました。今までの罪滅ぼしも兼ねております。

「お互いさまの心で、一日一善」

何の変哲もなく、「全然おもしろくない」との声が聞こえてきましたので、20年ほど前、釧路のお蕎麦屋<sup>そば</sup>さんで見つけた、よそ様の言葉をご紹介します。

あした死んでもいいように 考え考え生きていこ

食べたいものは食べておこ ゆきたいところへは行っておこ

会いたい人には会っておこ 百まで生きてもいいように

作者不詳

独創性のない私の抱負です。抱負は掲げるものではなく、実践するものです。「百歩の道も半歩から」。できるようでも、なかなかできないような気がしますが、勇気を出して飛び込んでみようと思います。今年もよろしくお願いいたします。

# 「新年の抱負」

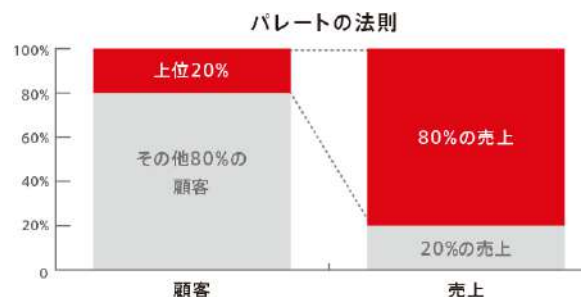
紺野 広

「ファンベース」という言葉が、野村證券の田部さんとの会話の中で出たことがありました。その時は良く分かりませんでした。時間に余裕がなく聞き返しませんでした。私がいぶかしげな顔でもしていたのか、分かっていないことが田部さんに察知され、後日、封筒が送られてきました。中には、ファンベースに関する Web 講演会の案内が入っていたので視聴してみました。

講演会は「なぜ今、ファンベースが必要なのか。ファンベースは社外・社内にファンをつくり、ファンを基盤にして経営やマーケティングを行っていく、これからの時代に必要な考え方です」という言葉で始まりました。内容要旨は、下記の通りです。

## Point 1 ファンは売上の大半を支え、伸ばしてくれます。

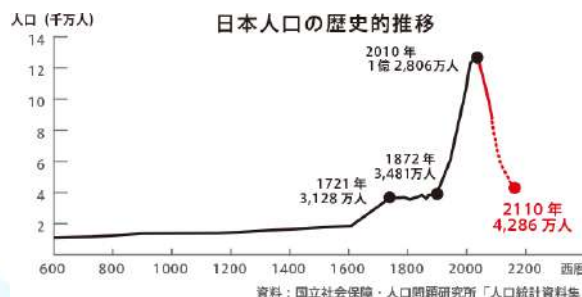
多くの小売り、B to B では、ファン上位 20% が売り上げの 80% を支えているという、パレートの法則が適用されます。また、「より熱量の高いファン（コアファン）」が 30% から 40% の売り上げを支えていることが分かっています。



## Point 2 時代的・社会的にファンの重要度が増えています。

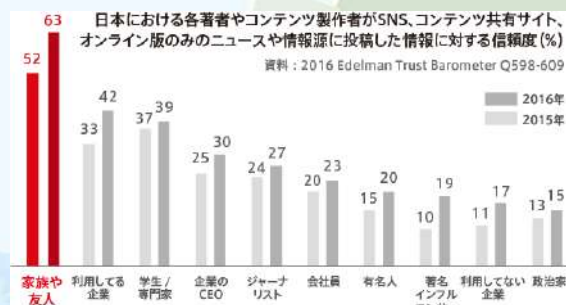
新規顧客の獲得がどんどん困難になっていきます。

- ① 人口急減やウルトラ高齢社会でマーケットが縮小する。
- ② 若者の物欲減少と独身者の増加で、新規需要が減っていく。
- ③ 情報の洪水やエンタメの過剰により、広告がいよいよ効かなくなる。



## Point 3 ファンは新規顧客を増やしてくれます。

一番信頼されている情報源は家族や友人であるという調査結果が出ています。つまり昔よりクチコミや紹介が効きやすいのが今です。情報も商品も過剰に多すぎる時代に、企業や商品のファンから熱量高く友人へオススメしてもらうことで最強の信頼を獲得できます。



(グラフは株式会社ファンベースカンパニーHP より転載)

ファンベースは、経済の観点から生まれた言葉ですが、医療や私の病院を取り巻く環境に対し、新たな視点を持つべきことを示唆していると感じました。

日赤には、病院間の転勤はありません。必然的にほとんどの方が入職から退職まで同じ病院で勤務することになります。その功罪はさておき、私以上に病院を愛する職員は多く、その方々にこの考え方を伝えることを、令和3年の課題としたいと考えています。

「患者さんが居心地良く過ごせ、さらに自分が望む転帰を医師・スタッフと相談しながら共に求めている病院。そういう日々を積み重ねていくことが、次につながる。『八戸日赤が後世に託せる病院として、ここにあり続ける』ために必要なことだ」と。

今まで職業・医療倫理に則って、粛々と仕事をこなしてきた職員が多いと思います。私の話すことが目標となるか分かりませんが、未来を見ることは推進力を生みます。そして、病院が「今ある」のは、先人たちの努力もさることながら、何より病院を信頼してくれている患者さんが、他の患者さんの受診につながっているのだと知ることは、共に夢を見てくれる職員に何かをもたらすはずと考えるようになりました。

田部さん、いろいろ教えて下さってありがとうございました。頂いた本も読みましたよ。

## 「新年の抱負」

築館 智大

2021年はガバナーノミニーになります。

全ての会議、勉強会に出席が義務付けられますので、気合いを入れて頑張りたいところですが…。ウイルスとの戦いはこれからで、今はまだまだ序章のような気がしています。

ワクチンを接種できるようになったら「もうOK！」みたいに単純には行きません。人間も、鳥も、豚も、牛もです。

映画で観たような壮絶な戦いにならないことを願っています。自分たちでできることをきちんとしましょう。

絶対勝てる！ でも、その時の風景は相当変わったものになってるような…。

新年の抱負は「頑張る！」です。

## 「我慢の先には希望、自粛の先には脱メタボ？」

小井田 和哉

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨年は新型コロナウイルスに振り回された1年でした。さまざまなイベントや会合が中止となり、会食や宴会も自粛しなければなりませんでした。そのような中で、八戸ロータリークラブ65周年記念式典を実施できたのは非常にうれしいことでした。

しかし、コロナ禍はまだ続いています。いまだ終わりが見えていません。これからも我慢の時期は続きます。

2021年は十干十二支で「<sup>じっかん</sup>辛<sup>かのとうし</sup>丑」の年です。「辛」は思い悩みながらゆっくりと衰退していくこと、痛みを伴う幕引きを意味し、「丑」は発芽直前の曲がった芽が種子の硬い殻を破ろうとしている状態、命の息吹を表します。

「辛丑」は緩やかな衰退、痛みを伴う幕引きと、新たな命の息吹が互いを生かし合い、強め合う、つまり衰退や痛みが大きければ命の初動が大きくなり、芽吹きが大きければその分、激烈に枯れる。**辛いことが多いだけ、大きな希望が芽生える年になる**ことを指し示しているそうです。

私は半年後の本年7月から八戸ロータリークラブの会長を拝命いたします。おそらく新型コロナウイルスはまだ収束していないでしょう。当然ロータリーの活動も引き続き制限が必要となり、地区や南グループでの会合、姉妹クラブや友好クラブとの交流もリモートが主流だと思われます。大人数での夜例会も開催が難しいかもしれません。

しかし、そうした辛い時期を乗り越えた先には大きな希望が待っているはずです。それまでは、我慢に我慢を重ね、耐えに耐えて、そしてコロナ禍が収束し大人数での会食が解禁になった暁には、皆でパーッと騒ぎましょう！

個人的には「**脱メタボ**」を目指します。自粛生活で食事の量や質に気を付け、晩酌もストロング系からアルコール度数が低いものに変更、かつ飲む量を減らしました。また昨年9月から早朝のウォーキングも始め、何とかお腹周りの余計な肉を落したいと思っています。

まだ目に見える成果は出ていませんが、継続すればいつかは…。頑張ります！



## 「心の健康」

鶴飼 寿栄

健康を気遣うことを忘れるぐらい体調に無頓着な行動していたが、八戸ロータリークラブ会長時代に異変に気づき診察したところ、ストレスによる内臓疾患との結果が出た。医師から「会長を辞退し治療に専念したら」とのアドバイスを受けたが、任期まではと続けた結果、さらに悪化し、1年間休会させてもらった。

この経験で病からの環境は心の健康をも奪うことを実感した。復活を遂げた後は「歩こう会」の発足に当たり、これは必然的なことかとも思い、積極的に参加した。

そこにはI DMとは違う新しい発見が多様にあったと思う。歴史と伝統に寄り添う歩こう会はもう一つのクラブチャンネルとして機能し、肉体的健康と心の健康を醸成するクラブ活動として定着することを祈念し、新年の抱負とすることも悪くないと思った。



## 「2021 年の抱負」

夏川戸 斉

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては穏やかな新年を迎えられたことと思います。

思い起こせば昨年はコロナ年と言っていいほど振り回された年であったと感じています。今年は、コロナの早期収束を願うところであります。

さて、そのような中、今年私はどうするかを考えたとき、現段階では思い浮かぶことはありませんでした。しかしながら、コロナの影響で、生活スタイルが一変し、これをビジネスチャンスにできないかと思っているところであります。リモート、マスク、宴会中止等々。わが社の生業は、産業用電機品（エレベーター、空調、トランスなど）を販売し成り立っています。あらゆる業界がしぼんでいく中、わが社はどうやって生き残っていくかを見極める1年となると思っています。

皆さまにとりまして、ロータリーにとって、穏やかに上向きなることを願います。私も皆が幸せになるような活動、行動に努めるよう心掛けます。

丑年は、耐える年、発展の前触れ（目が出る年）と言われてるようです。芽が出る年になりますよう願います。

## 「67歳のぼやきと抱負」

佐々木 泰宏

年を取るにつれて、やらなきゃならないことがだんだん減ってきます（やりたいことはあるのですが…）。それに、このコロナと寒波に追い打ちをかけられて、ますます身の置き場がなくなってきました。

そこで、これまで集めてきたレコードを片っ端から聴いて、断捨離しようともがいています。ところが、レコードの片面を聞き終わらないうちに睡魔に襲われて、さっぱりはかどりません。こう寒くてはゴルフの打ちっ放しにも行きたくないし。

1週間に1度集まるロータリークラブのありがたさを身にしみて感じる今日この頃です。

来年のささやかな抱負。「八戸ロータリー親睦ゴルフクラブ水曜会で、1度はタイトル取るゾ！」

早くも緑の芝が恋しくなったササキでした。



## 「入会に至った経緯」

福島 哲男

八戸ロータリークラブに入会するに至った経緯について報告いたします。

本年創立70周年を迎えました太洋石油株式会社と、同じく70周年を迎えた株式会社福島漁業ですが、太洋石油株式会社は、熊谷義雄氏を社長に、佐々木隆蔵氏、佐々木惣吉氏（私の叔父、父の兄）が立ち上げた会社でした。

その後、熊谷義雄氏は昭和30年の八戸ロータリー設立にも関わり、昭和29年から昭和39年まで八戸商工会議所会頭（第7代）を務めております。昭和38年11月の第30回衆議院議員選挙に初当選以来、連続5期当選しています。

その間、太洋石油2代目社長に佐々木隆蔵氏（会議所第9代会頭）が就任。その後、佐々木惣吉氏、長男の熊谷行雄氏と引き継がれ、平成9年より不詳私が社長に就任しております。昨年、青森県議会議長を務められた熊谷雄一氏は熊谷義雄氏のお孫さんです。

そのような関係もあって、第11代八戸商工会議所会頭橋本昭一氏の推薦を頂戴して、平成27年1月、ロータリーに入会させていただいた次第です。

ロータリアンとしては若輩者ですが、皆さんの足手まといにならないよう、努力いたしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

## 「できるかな？」

峯 正一

ガバナーを出したクラブを訪問したいと思っています。特に 10 人前後の会員数のクラブ、例えば川口さんのおいらせ、松本さんの青森中央、鈴木さんの青森モーニングなど、どんな例会の仕方をしているか興味のあるところです。それもこれもコロナ禍が収まってからのことですが。

また東京クラブも機会を持って行きたいと思っています。八戸クラブと例会が曜日も時間も同じ、そして委員会編成も同じようなので。これも当クラブのチャーターメンバーの方々が考えてのことなのかなと思いを巡らせています。ただ持病ではありませんが、病気の後遺症が急にしたりするので、ためらってしまいます。

気持ち的には実現したいものですが、果たしてできるかな？

## 「健康グッズ」

福井 哲郎

昨年はコロナ禍の中、リモートワークと外出自粛で家にいる時間が増え、飲みに行く機会も減ったことで少し懐にゆとりができ、その結果、ネット通販の利用が大幅に増えてしまいました。今はポチッとボタンを押すだけで 2 日後には商品が届くので、ホント便利な世の中になりました。

おかげで家はまだ段ボールに入りっぱなしの健康グッズが「いつ開封してくれるんだ？」と言わんばかりに積み重なっています。

2021 年はこの段ボールに入りっぱなしでかわいそうな健康グッズたちを段ボールから出して、しっかり使ってあげたいと思います。目指せ、健康生活 10 年ダイエット！



話は変わりますが、2020 年はいろいろ大変な 1 年でしたが、2021 年の干支は「<sup>かのとし</sup>辛丑」。「辛」は「草木が枯れ、新しくなろうとしている状態」、「丑」は「種から芽が出ようとする状態」という意味があるそうです。なんか今の世情に重ね合わせると、徐々に良い方向に向かうのでは？との期待を感じさせる干支ですが、果たしてどんな 1 年になるのでしょうか…。皆さまのご多幸をお祈りいたします。

## ㊦ 「なぞかけ」に磨きをかけます ㊦

正部家 光彦

古くから「笑う門には福来たる」ということわざがあります。皆さまにとりまして、笑顔いっぱい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

今年の抱負として、道尻会長のギャグに負けぬよう、少し知的で洗練された「なぞかけ」に挑戦したいと思います（会長！生意気言って、ごめんなさい）。

皆さまのコロナに負けぬ免疫力を高める笑いにつなげることを願い、「うまい!! 座布団1枚!」のお声を頂けることを期待して、日々精進してまいります。

では、新年のご挨拶として三つ整いました！

（1）「お正月」とかけまして、「来たる東京オリンピック」と解きます。

その心は、どちらも「きんがしんねん（謹賀新年・金が信念）」

（2）「冬」とかけまして、「ケチな人」と解きます。

その心は、どちらも「かんぱ（寒波・カンパ）は嫌です」

（3）「節分の豆まき」とかけまして、「はだかの王様」と解きます。

その心は、どちらも「フクきて（福来て・服着て）ほしいです」

お後がよろしいようで…。今後も乞うご期待。

## 「2021 年もよろしく願いいたします」

平戸 昭彦

八戸ロータリークラブ会員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

弊社東北電力は、おかげさまでもちまして今年5月に創立70周年を迎えます。これからも東北の、そして八戸市の成長と発展のため、お客さまや地域に「寄り、添い」真心を込めたサービスに取り組んでまいります。

さて、私個人の今年の抱負ですが、まずは安全と健康を第一に、煙草は本数を減らし（禁煙はしません）、お酒は週0回の休肝日を何とか週1回にしたいと思います。もちろん、仕事とロータリークラブの活動もしっかりやっていきたいと思います。

また、先般発足したゴルフ倶楽部に入会させていただきましたので、皆さまの足手まといにならないよう、週1回以上は練習場に通い、皆さまについていけるようにしたいと思います。スコアの目標はあえて設定いたしません…。

今年もよろしく願いいたします。

## 「自己ベスト更新」

板 慎一

昨年は、会員の皆さまに新人口ータリアンとして温かく迎え入れていただきまして、大変ありがとうございました。ゴルフ部にも入部させていただきましたので、今年はこれまで以上に真面目に練習し、自己ベスト更新を目指したいと思っています。

本年もよろしくお願いいたします。

## 「出会いとつながりの価値は後から分かるもの」

深澤 隆

医師になり 22 年、今年で人生 4 回目の年男を迎えた。2050 年には男性の平均寿命が 84 歳になるとの推計から、平均的に健康であれば、私にも少なくともあと 3 回の年男の機会がある。

アインシュタインの言葉に「人生とは自転車のようなもので、倒れないようにするには走らなければならない」とあるが、まさにこれまでは倒れないようにすることで過ぎ去ってしまった。大学時代からの過ぎた時間を振り返ってみると、友人や先輩医師、同僚、患者さんなど多くの人との出会いが転機や経験となり、その後の医師としての人生の選択に大きく影響していたのだと、最近実感するようになった。

これまでの出会いがもたらした貴重な経験とつながりは、出会った当初よりもだいぶ時間が経ってからその価値に気付くものである。これからも出会いと出会いがもたらしたつながりを大切にすることで、新たな転機を迎えるのかもしれない。

年男の抱負を「牛」の文字にちなんで考えてみる。「呑牛之氣」のようにやる気に満ちあふれて心意気を大きく持つことはもはや難しいが、年初めぐらいは「食牛之氣」で心構えぐらいは大きく持ちたいものである。

「牛は自分が歩くのが遅いことを自覚し前の晩から出発したので、最後に背中に乗っていたネズミに 1 番の座は譲ったが、2 番になった」という十二支の物語ではないが、謙虚と確実を心構えにして、自転車ではなく牛のようにゆっくりと歩む 1 年にしたいと思う。



## 「八戸で迎える正月」

奈良 全洋

皆さま、こんにちは。NTT 東日本の奈良です。昨年は大変お世話になり、ありがとうございました。

昨年はコロナに振り回された 1 年でした。千葉の自宅では、近隣でのコロナ感染が止まらずに、結局、一度も千葉に帰省することができませんでした。

この年末年始をどうするか悩みましたが、自宅近くでクラスターが発生していることもあり、八戸で正月を迎えることにしました。

せっかく年末年始を八戸で過ごすのですから、この機会に青森を満喫したいと思っています。そこで、自分のやりたいことを並べてみたいと思います。

- ①青森県内の「道の駅」28 カ所を制覇したい。今までに行ったのは三八上北を中心に 11 カ所。残り 17 カ所にぜひ行ってみたい。
- ②津軽海峡冬景色を写真に撮って家族に見せたい。
- ③冬の大間崎の写真を家族に送って本州最北端の地に立っていることを自慢したい。
- ④小川原湖でワカサギの氷上穴釣りをしてみたい。
- ⑤青森県内で有名な初詣スポット巡りをしたい。Web で調べると人気ランキング TOP10 に八戸市内の櫛引八幡宮、蕪島神社、長者山新羅神社の三つが入っているので、ここは外せません。
- ⑥雪の「鶴の舞橋」の写真を家族に見せたい。

う〜ん…とても、この正月休みだけでは、やり切れそうもありませんね。今年の春までの目標にして、感染防止を図りながら楽しみたいと思います。

一日も早くコロナが収まることと、皆さんにとって 2021 年が良い年となることを願っています。今年も何とぞよろしくお願いいたします。



## 「文化は戦略に勝る」

澤藤 孝之

会員の皆さん、明けましておめでとうございます。本年もご指導のほど、よろしくお願いいたします。

コロナ禍にあって、私も経営者の端くれとして悪戦苦闘の日々を送っています。会社として経済・社会の動きを見据え、経営の戦略を立てなければいけないのですが、これがなかなか難しい。決め打ちした戦略を立て、大型の設備投資などを実行しても、世の中の変化が速かったり予想外だったりして、当初の目論見が外れると大きな損失を被り、場合によっては致命傷となることもあります。

過日読んだ某新聞の記事によると、実は今世紀に入って、コロナがなくても、世界の不確実性は高まっており、企業や経営者にとって視野不良の状態が続いてきたとのことで、不確実性の源泉は主に三つあるとのことでした。

一つ目は政治経済の変動で、2001年の米同時テロに始まり、リーマンショックを経て、欧米のポピュリズムの台頭や中国共産党の強権的な政策などが挙げられます。二つ目は地震、津波、台風、洪水など自然災害の世界的な激甚化です。経済産業省の集計では、日米中3カ国の直近5年間の被害総額は1996～2000年の3.6倍に及んでいるそうです。そして三つ目がITやバイオを中心とした猛烈な速度で進む技術革新です。

このように先の見通しにくい時代に企業がよるべき指針は何か。この記事によりますと、経営学の泰斗であるP.ドラッカーがかつて述べた「文化は戦略に勝る」という言葉に再び脚光が当たっているとのことでした。緻密な戦略を立てても、情勢の思わぬ変化で、その戦略は陳腐化したり、的外れになったりする。逆に、組織(企業)に「良き(企業)文化」が根付いていれば、環境が一変しても、企業は強みを保持できるとのことでした。



P.ドラッカー

私の会社にも既にいろいろな「文化」が根付いていますが、良き文化をさらに伸ばし、悪しき文化を改めていくこと、そして新しき良き文化を創り上げていくことの重要性を、この記事を読んで改めて認識させられました。当然ながら文化を醸成するには一定の年月を要しますが、今年をその一歩とするべく頑張りたいと思っていますところでした。

ちなみに「文化は戦略に勝る」の原文は“Culture eats strategy for breakfast.”だそうです。直訳すれば「文化は朝食に戦略を食べる」となりますが、これだとちょっと意味不明です。

この英文を「文化は戦略に勝る」と訳した人のような柔軟な発想力が会社経営にも必要なのかもしれません。

## 「Let's go skiing で現実逃避」

橋本 八右衛門

去年はコロナ禍で商売とすれば大停滞、今まででさえも先が見えにくかったものが、ますます見えなくなった、そんな感じでありましたが、そうは言っていられない。今年は今後の方向を定める大きな転換の年になるだろうと感じております。そちらは気合を入れていくことは当たり前でしょうが、他方面の抱負を書かせていただきます。

私は基本、やりたいとする何かが少ない人間だと思います。思い返すと、子ども時代から怒られるからやる、周りがそうだからやる、あるいは選択してやらなくてはいけないからやる、といった具合です。やってみれば充実して満足感が得られたり、楽しかったり、良かったと思えるものもたくさんありましたが、今でも本質は変わらずと思っております。当然社長という立場もそうでありますし、ましてやロータリアンも…？

そんな私が今年は頑張っていくぞと珍しく盛り上がっているのが「スキー」です。自分としては「どんなスポーツが好きですか？ 何かやっていましたか？」的な問いかけに唯一答えられるもの。子ども時代、親父に毎週のようにスキー場へ連れていかれ、千尋の谷にたたき落されたごとく強制的に教わった思い出があります。一緒に楽しみたいと思ったからでしょうが、当時はインパクトが強すぎて…。ただ今になっては感謝しかありません。

実家を離れていた時代は残念ながらほとんど機会はなく、戻ってからも商売柄、冬は酒造り真ただ中であり、現場の長であったときには行くべきではないと思い、随分と離れておりました。それが社長となって現場を離れ、自分の子どもたちもそれなりの年齢になったタイミングで、私も親父の思いと一緒にだったので、スキーを再開。谷に突き落とすどころか逆に放置気味でありましたが、子どもたちがすんなりと滑れるようになったため、家族スキーをポチポチという具合。近年は子どもたちも忙しくなり、当然「ボッチスキー」となりましたが、出張やら腰痛やらも重なってテンションが落ち、あまり行かずにいたところでありました。

もちろん素人自己流であり、ただただ黙々と滑るだけではありますが、雪山のリフトにぽつんと一人乗っているときの何もかも消えてしまうような静寂に身を委ねたり、何とんでも何もかも吹き飛ばすことができるような滑り降りる疾走感、そして運動を全くしない私にとって唯一、運動したという気持ちの良い疲労感。私にとっては何事にも代え難いことであります。

あらためて考えてみると、何のスポーツでも煩惱を捨て去って集中する必要があるわけで、それをするという事は「後悔しなくても済む前向きな現実逃避」とも考えられなくもなく…？ 最近は海外出張が結構ありましたので、そこで気分転換、もとい現実逃避ができていたと思います。しばらく不可能な状況が続くと思われまして、さらに、やりたくないのにやらねばならぬことが数多くのしかかってくると思うと…。

今年は積極的に現実逃避、でなかったスキーに、でなかったスキーも、頑張っていきたいと思えます。



## 「2021 年の抱負」

田部 久貴

皆さま、明けましておめでとうございます！ 本年もよろしくお願いいたします。

昨年はコロナでやりたいことがほとんどできませんでしたので、今年の抱負は盛りだくさんですが、三つに絞りました。

まず一つ目は、今年ほとんどできなかったゴルフで自己ベストの 89 を更新することです。昨年は、アイアンを買い替えて「いざこれから!!」というところで、コロナにより会社からゴルフ制限をされて 6 回しかできませんでした。その 6 回も直近の自己ワーストを更新する内容で、非常に悔しい 1 年でした。今年はコロナが落ち着いていけば、一生懸命に練習しますので、ゴルフ部の皆さま、積極的にお付き合いいただけますよう、よろしくお願いいたします。

次に、ローターアクト委員長として、八戸ローターアクトクラブの人数を 10 人以上に増やすお手伝いをする予定です。昨年はコロナ禍で私自身があまり参加できず、企業への勧誘もそこまでできませんでした。ローターアクトとしては、小菊荘の学習支援に蕪嶋神社のすす払い、VISIT はちのへ見学会と、コロナ禍でも積極的に活動しております。



弊社の社員もアクターとして参加しておりますが、若いうちから「自分で考えて行動する」という力を鍛える場として、非常に有効的であると感じております。今年も、アクターが成長できる企画の手助けをたくさん行いますので、若手社員を鍛えたいと考えているロータリアンの皆さまはぜひ、ローターアクトの例会や企画を会社の若手社員にご紹介ください。気軽にゲストとして参加していただくこともできます!!、と営業マンらしく、今年の「抱負」からの今年の「勧誘」といたします。

最後に、人事は天命なので確定的なことは分かりませんが、過去、野村證券八戸支店の支店長は全員 3 年で転勤しており、2019 年 3 月に赴任した私も同じだとすると、残り 1 年 3 カ月の八戸ライフとなります。精いっぱい地域に貢献していくことを最後の抱負とするとともに、コロナが落ち着きましたら、お酒、食べ物での悔いが絶対残らないように日々取り組んでまいりますので、夜もお付き合いいただけますよう、何とぞよろしくお願いいたします。

本年が皆さまにとりまして、コロナも収拾して、オリンピックも実施されて、最高の 1 年となるように祈念いたします。

また皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

## 「コロナ退散」

広瀬 知明

八戸三社大祭の名称の通り、八戸市の中心部には、<sup>おがみ</sup> 龕神社、新羅神社、神明宮の三つの神社がある。

長横町の近くで生まれ育った私にとって、神社と言えば新羅神社だった。社がある長者山は格好の遊び場であり、夏はかくれんぼや肝試し、冬はそりやミニスキーで雪の参道を転げ回ったものだ。もちろん、初詣、合格祈願、秘密の願掛けは全て、新羅神社にお任せだった。

神明さん（神明宮）といえ、初夏の茅の輪祭だろう。クライマックスの茅の輪くぐりは午前0時からなので、子どもころは眠くて参加できなかったが、門前にサクラランボの市が立っていたのは懐かしい思い出。

一番縁のなかったのが八戸総鎮守の龕神社である。家から遠かったという単純な理由だが、今では徒歩での通勤途中にあるという、これまた単純な理由で一番身近な存在になった。鳥居の前を通るときは、地域の住民を見習って必ず一礼するのが習慣に。編集から事業、営業に異動してからの願掛けは、もっぱら売上増1本に絞っている。龕神社の総代には八戸ロータリーの会員を含む経済人が名を連ねており、いかにも商売繁盛のご利益がありそうで…。

ところで、新年の初詣はコロナ禍で大きく様変わりしそうだ。参道での三密対策に始まり、<sup>ちょうずや</sup> 手水舎のひしゃく撤去や露店の出店禁止、縁起物の前倒し販売、三が日以外の分散参拝…。わが家では新年に神棚にある新羅神社のお札を取り換えているので、家族とは大みそかに参拝しようかと相談している。

いずれにせよ、日本全国、初詣に訪れた人々の共通の願いはコロナ退散だろう。

八百万の神々よ。ここはひとつ、ご利益の専門分野にとらわれず、日本国民、いや世界人類が切望するコロナ禍の早期収束をかなえてほしい。

わが社の売上増はこの際、2番手で構わないので。



---

年末のお忙しい時期にご寄稿いただいた 19 名の皆さま、  
本当にありがとうございました！